新・山と花のたより 233号

２０２０年１月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

頌春

内外の政治も経済も、そして地球環境までもが激動していますが、いかがお過ごしでしょうか。

私達も来年八十路に入ります。体力の衰えを痛感しつつも、余生を、初心忘れず、次代のために少しでも役に立つことをと願いながら過ごしたいと思っています。

両人とも、地域での活動はもとより、トミ子は新舞踊を、忠は山歩きを　皆様とご一緒に続けます。

２０２０年元旦　松尾忠　トミ子

三つ峠山からの富士・撮影松尾治⇒

元旦の二上山

雌岳山頂で初日の出を待つ人々

2020 年元旦 4 時半起床。外に出て空を見上げると星が瞬いている。届けられた「赤旗」新聞ともう一紙とをざあっーと眺めてから準備をして二上山に向かった。

5 時 40 分ヘッドランプを付け、ダブルストックで登山開始。

ゆっくり登っていると何人かの若い人たちに追い抜かれる。

元日恒例の甘酒をいただく

やがて雄岳と雌岳との鞍部・「馬の背」に到着、ここでは大阪側の有志の方々による甘酒のおもてなしが毎年行われている。私も有難くいただき、身体を温めて雌岳に。

雌岳山頂では大勢の老若男女が東の空を見ながら、御来光を待っている。やがて東の山際が次第に赤みを増し、まもなくかわたれ時に。

ヘッドランプを消した人々の顔が見分けられるようになった。顔見知りの人たちと年賀のあいさつを交わして、馬の背に向けて下り、「2杯目ですが---」とお願いすると、「最後の一杯をどうぞ」と大釜の底をさらって甘酒を注いでくれた。美味しかった。丁重に礼を述べ、いい気分で岩屋峠に回り、ごみをちょっぴり拾って下山した。

1月に咲くアザミの花

下山口の近くの當麻大池の堤防でアザミが花を開いている。写真に収め、帰宅後手元の図鑑で「秋咲きのアザミの種類」を調べるが、納

得できるものが見当たらない。思い余って植物研究者の O さんにメールで画像を送り、種の同定をお願いした。

しばらくして返信があり「外来種のアメリカオニアザミにも似ているが、多分ノアザミだろう」との事、図鑑ではノアザミの花期は春となっているが、秋咲きのものもあるとOさんは言う。

登山道に散乱するテイカカズラの種　冬、登山道には多種多様な植物たちの種(たね)が落ちている。その中でも目立つのがテイカカズラの種(写真左)だ。茶色の棒状のものが種子、白く長い綿毛が付いており、この綿毛で風に乗り、遠くまで運ばれ、そこの条件が良ければ芽を出し、繁殖する機会を得るのだ。タンポポやネコヤナギの綿毛も同様の働きをする。こうした努力、チャレンジを長期間繰り返し、長い年月をかけて繁殖地域を広げたり、気候変動に対応して移動していくのだ。動けない植物たちが利用するのは風だけではない、水や動物、鳥、昆虫などに運んでもらう種類もあり、人間の移動につれて、世界中に広がったものも少なくない。

↑テイカカズラの花(初夏)

だが、こうした営みで当面する地球の気候変動に対応できるだろうか。いや、植物だけではない、人間すら、自ら作り出した地球温暖化とそれに伴う気候変動に苦しんでいる。

地球史上稀にみる「生物種の大絶滅」が現在進行中なのだ。地球とそこに棲むすべての生物の生存そのものが脅かされている。それなのに、アメリカ、日本などでは大企業の利益優先の政治が進められ、温暖化対策に本気で取り組もうとはしていない。資本主義の限界がますます明らかになりつつある。「政治を変える」ことがすべての人々の責務となっていると私は思う。

続・続・二上山に咲く花々２０

トリガタハンショウヅル（鳥形半鐘蔓）

キンポウゲ科センニンソウ属

キンポウゲ科のつる植物。高知県の鳥形山での命名でこの名に。金剛山の青崩(あおげ)林道などではよく見ますが、二上山でも林縁部で咲いています。花期は 4～６月。

花の色は白～白黄緑色、清楚で美しい。花の大きさは 2～3 ㎝。

ハンショウヅルの仲間は釣り鐘形のものが多いが、この種は４つの花びらの先端が外側に開きます。

同科同属のクレマチスの仲間。園芸種としても扱われています。